

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号	15S3036	院生氏名	高山 裕子
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	子育て中の女性看護師のメンタルヘルス：バーンアウトの影響要因 —子育て時期の視点から—		
審査結果（枠で囲む）	合格 不合格		

<審査結果の要旨>

1. 主論文について

1) 研究の概要：子育て中の女性看護師を対象にバーンアウトの要因を子どもの年齢や子育て時期別に、区分し比較検討した系統的な研究である。本研究の意義は、病院の看護管理者がそれぞれの子育て時期にあったバーンアウトの予防対策や、適切な支援体制に活かすことができる。研究目的は、子育て中の女性看護師のバーンアウト予防のため、バーンアウトに影響する要因を、子育て時期ごとに明らかにした。研究対象および調査対象施設は、神奈川県内の200床以上の14市立病院のうち承諾の得られた9病院に勤務する看護師3,758名に調査票を配布し2,624名（回収率69.8%）から回収した。バーンアウト尺度と性別の回答に欠損や重複のないものを有効回答数2,362名（有効回答率90.0%）とし、そのうち、女性看護師2,047名を分析対象とした。研究方法は、自記式質問紙調査による横断的研究で、質問項目は日本語版バーンアウト尺度（MBI・HSS）22項目を目的変数として先行研究から個人要因、環境要因、対処行動、緩衝要因（職場への満足度）に、研究者の体験と経験知である子育てを困難に思う気持ち、職場の子育て環境を加えて説明変数とした。分析方法は、質問紙の回答結果から女性看護師の子育て時期を①子どものいない者、②末子の年齢が3歳未満、③末子の年齢が3歳から就学前、④末子が小学生、⑤末子が中学生、⑥末子が高校生以上の者に分類した。これらの時期毎に重回帰分析を行い因果モデルに投入し変数を抽出した。この変数を観測変数として、子育て各期のバーンアウトの因果モデルを作成し、共分散構造分析にて適合性を検証しながら因果モデルの改良を行い、適合度が選択基準を満たしたものをバーンアウトに影響する要因とした。統計解析ソフトはSPSS Statistics Ver. 24.0およびAmoVer. 24.0を使用した。研究結果は、バーンアウトに影響する要因は子育て期間により異なり、すべての対象者のバーンアウトの影響要因は、イライラ、自身の健康問題、職場への満足感であった。超過勤務は小学生以下の子どもを持つ者のバーンアウトに影響していた。子育てを困難に思う気持ちは、バーンアウトに影響していなかった。結論は、小学生以下の子どもを持つ者では、超過勤務時間の長さがバーンアウトに直接影響しているが、それ以外の者は影響していなかった。また、小学生以下の子どもを持つ者は、子育てを困難に思う気持ちがイライラ感の増強や職場への満足感の低下に影響していた。小学生以下の子どもを持つ者とそうでない者は、バーンアウト因果モデルが異なっており、高校生以上の子どもを持つ者と子どものいない者は、ほぼ同様のバーンアウト因果モデルであった。

2) 研究方法：研究Ⅰの結果を踏まえて研究Ⅱへと関連性を明確に示し、研究ストーリーに一貫性のある論文構成である。研究目的を踏まえた先行研究と経験知、学識経験者らのブレインストーミングから研究デザインを構成し、データ収集および分析、結果、考察、結論が示され、本研究の限界と課題が適切に表現されていた。倫理的配慮は、国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施されていた（承認番号14-Ig-14）。

3) 知見の新規性と価値について：本研究の新規性は、女性看護師の子育て時期を6区分に分類し、各時期ごとに因果モデルを示した点にある。その影響要因は、末子が小学生以下の子どもを持つ者の超過勤務の長さがバーンアウトに影響しており、子育てを困難に思う気持ちがイライラ感の増強や職場への満足感の低下に影響していた。これらの新規性は、病院および他の医療施設において、子育て中の女性看護師を雇用している管理者の適切な支援体制に貢献する研究として高く評価できる。

2. 審査経過

審査会は2回開催に、初回審査において論文の研究デザインで研究対象者を女性看護師に限定した理由を述べることに、データ分析結果を図表で示しているが解説文を加えること、論文構成を研

究のストーリーが明確になるように簡潔明瞭に加筆修正することを求めたところ、適切に修正されていた。

3. 口頭試問

初回の口頭試問の結果、研究デザインについてより具体的な研究過程の説明を求めたところ、2回目の口頭試問において適切に応答した。

以上の審査結果から、審査会の審査員全員は本論文の著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主 査 岡崎 美智子
	副 査 赤居 正美
	副 査 青木 万里